

うみがめぐり

いのちのバトンをわたそう

花巻市立八幡小学校

二年

小田島

史弥

夏休み、山形のはくぶつかんでオサガメのはくせいを見ました。すぐく大きいので、びつくりしました。こんな大きなウミガメが、すなはまのたまごから、からをたたいて生まれてきたんだと思うと、とてもかんどうします。生まれたばかりのウミガメが、海におかして歩き出すのをテレビで見たことがあります。

2

す。ぼくは、がんばれ、がんばれとおうえんしながら見ていました。そして、海までとうちやくするのにはずいぶん時間がかかったのを思い出しました。

がんばって海に出たウミガメは、アライグマやダイサギなどの天てきにたべられてしまふこともあります。また、ミサイルのようにものすぐくはやくおそってくるシロカツオドリもいます。海から空からも天てきがやってきます。

ザトウクジラに出会ったら、みんなたべられておわりかなと思ったら、「ああ、みんなクジラになっていく」と書いてありました。そうか、つぎのいのちになるんだ。きえてなくなるわけではないんだとあんしんしました。ぼくもまい日、やさいや肉、魚などいろいろなものをつまんでいます。それらのたべものはぼくの体になっていきます。

クジラは、しんでしまおうと海のそこまでしずんでいきます。そして、プランクトンなど

の小さな生きものもそだてます。そのプランクトンをウミガメの赤ちゃんがたべて生きていきます。このことが、いのちのバトンをリレしすることだと思えます。

さいごに、ぼくは、この本を讀んでしんばいなことがありました。それは、絵の中に、こわれたかさなどのごみがあつたことです。また、ウミガメがへってきているということ。ぼくは、これらのことをかぞくや学級、うのみんなに知らせたいと思います。